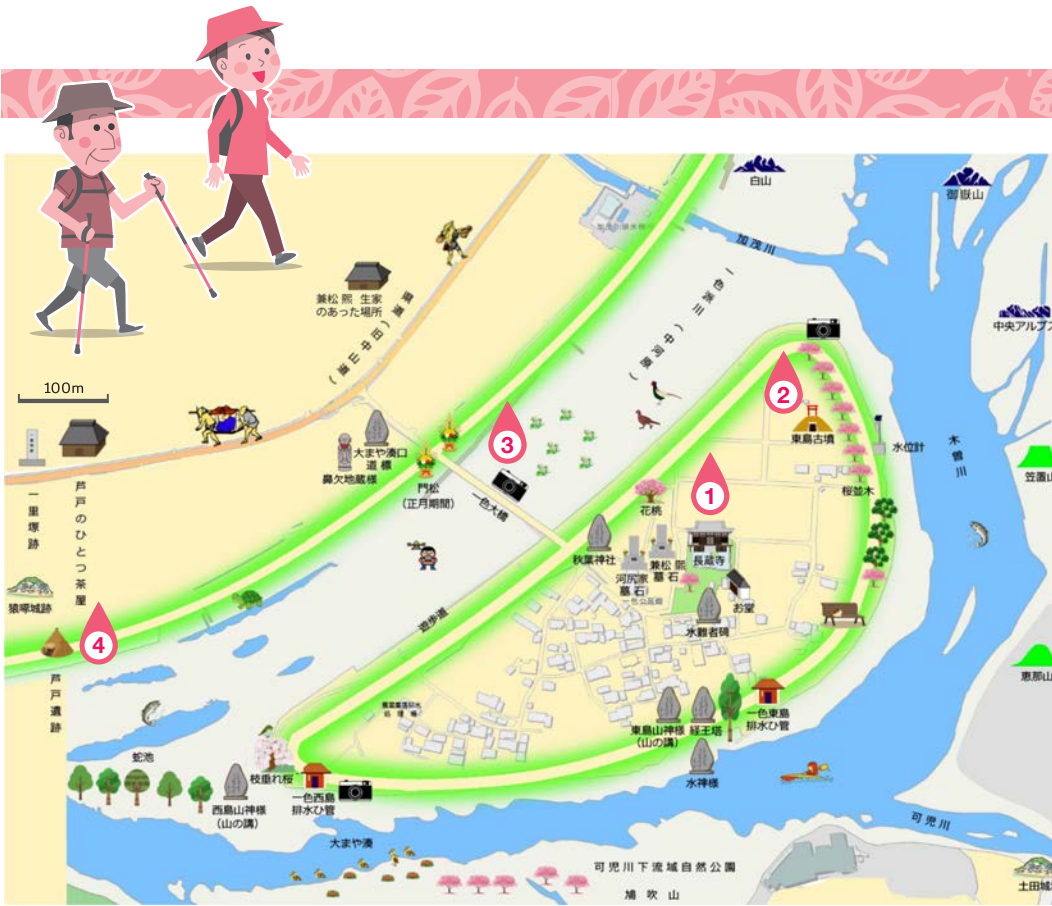


# まち歩き「ぶらっと坂祝」

一色の自然と偉人が眠る長蔵寺を訪ねて@一色  
 10月17日に学びのとびら事業の一環で、一色を散策しました。  
 20名が参加し、一色の昨今について学びました。



## 一色散歩マップ

飛騨木曾川国定公園区域内  
 面積：18.9ha 周長：1.9km 堤防歩道延長：1.8km 徒歩：22分

### ① 長蔵寺

1537年創立され、今に至るまで約500年の歴史があります。

建設されて数十年後に、織田信長公が東美濃攻めの第一陣として猿ばみ城(当時の勝山城)へ攻め入りました。信長公が勝山の勝ち取りに貢献したとして、河尻秀隆公を勝山城最初の城主としました。その際に、菩提寺にしようと、長蔵寺を創建しました。



長蔵寺の揚羽蝶紋

### ② 東島古墳

小高い丘にお稻荷さんが祀られ、川原石が載っています。

東島古墳は、長蔵寺から見て、御嶽山がある北東の方角(丑寅の鬼門)に位置しています。この場所に建てられた理由は、鬼門の方角に寺を祀る風習があったことに由来していると考えられると言ひ伝えられています。



東島古墳  
 (写真左奥の山は御嶽山)

### ③ 一色大橋

昭和58年の9.28災害(台風10号の豪雨災害)による直轄河川激甚災害対策特別緊急事業として、昭和60年度から建設工事が進められ、昭和63年4月4日に開通式が行われました。

毎年年初は、地域の方が大きな門松を作り、一色大橋に飾っています。



一色大橋上からの景色

### ④ 芦戸遺跡

9.28災害後、木曾川沿いに堤防が築かれました。

築堤工事の際に、発掘調査を行ったところ、この地域から縄文時代から弥生時代にかけての住居址や土器、矢じり、耳飾り、腕輪が見つかり、地名から芦戸遺跡と命名されました。

かなりの数の遺物・遺構が発掘されており、河畔のアシでふいた竪穴式住居に住み、木曾川で漁労(魚貝や海藻などの水産物をとること)したり、郷部山で木の実を採集し、野うさぎを追ったり縄文の芦戸人がこのあたり一帯で生活していたと見られています。(出土品の一部は中央公民館2階に展示しています。)



芦戸遺跡の場所にて

# まち歩き「ぶらっと坂祝」

## 酒倉庚申像と浄専院

そして雲埋廃寺跡をめぐる @酒倉

11月6日に学びのとびら事業の一環で、酒倉を散策しました。24名が参加し、酒倉の昨今について学びました。

### 1 酒倉庚申像

この庚申像は、石製で、町の文化財に指定されており、庚申の日の信仰が彫刻されています。この信仰は、奈良時代に中国から入ってきたものだと考えられています。

庚申の日とは、年に6回訪れ、人間の体内にいる虫「三戸」が、人間が寝ている間に昇天し、至高神に罪過を告げる日で、罪過を密告された人間は寿命が縮まるといふ言い伝えがあります。そのため、当時の人々は、三戸の昇天を防ごうと夜を徹して念仏や心経を唱えていました。



参観の様子



### 2 浄専院

現在の浄専院は、覚法真奉比丘尼により再建されました。浄専院が火災で焼失する前は、大きい門が立っており、この地域の字名の大門屋敷の起源になっています。

現在は寺としての機能はありませんが、地域の方々により大切にされています。



再建した尼の墓

### 3 雲埋廃寺

は消滅しています。

雲埋廃寺は、地名に由来し、北野廃寺とも呼ばれ、古代寺院の瓦が出土する遺跡です。この遺跡は区画整理により現在は消滅しています。

坂祝町史によると、この土地は、木曾川へ流れ込む加茂川の河岸段丘上にあり、深田地区から酒倉へ向かう道と黒岩から坂祝神社を経て雲埋地区を通り加茂川右岸を太田地区へ向かう古道の分岐点にあります。地籍図分けから、大正期まで林に囲まれた建物、もしくは、寺院跡が、残存していた事が想像される地割です。

この遺跡では、現存する古代瓦三種類のうち、第一形式（単弁八葉文軒丸瓦）と第二形式（複弁面連二重鋸齒文縁軒丸瓦）が出土しています。



第二形式瓦



雲埋廃寺の位置（酒倉宇北野）

### 4 トドメキ古墳

雲埋廃寺に隣接したところに、美濃加茂市の指定文化財「トドメキ古墳」という2基の円墳があります。



トドメキ古墳1号



トドメキ古墳2号

